

令和2年度

南アルプス市教育委員会

点検及び評価報告書

【令和元年度事務事業分】

令和2年8月

南アルプス市教育委員会

目 次

I 点検及び評価について

- 1 趣旨 1
- 2 点検及び評価の対象とした事務 1
- 3 評価の点数表 1

II 点検及び評価のまとめ

- 1 教育委員会の活動に対する点検及び評価 2
- 2 教育委員会事務局の事務事業に対する点検及び評価 2

III 教育委員会の活動についての点検及び評価

- 1 教育委員会の活動状況 7
- 2 教育委員会の活動に対する点検及び評価 13

IV 教育委員会事務局の事務事業についての点検及び評価

- 1 教育委員会事務局の事務事業について 16
- 2 第2次南アルプス市総合計画 体系（教育委員会関係抜粋） 16
- 3 南アルプス市の教育振興プラン 体系（抜粋） 17
- 4 教育委員会事務局の事務事業に対する点検及び評価について 18

I 点検及び評価について

1 趣 旨

南アルプス市教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価の報告書を作成し、南アルプス市議会に提出するとともに、市民の皆さまに公表をしています。

これは、教育委員会の責任体制を明確化するため、平成 19 年の「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の改正において義務付けられたものです。

南アルプス市教育委員会では、自らが点検及び評価を行った結果を、今後の事務の執行に反映し、効果的な教育行政を推進してまいります。

2 点検及び評価の対象とした事務

(1) 教育委員会の活動に対する点検及び評価

委員自らが教育委員会活動の内容を振り返り、評価を行った上で評点し、意見を記載しました。

(2) 教育委員会事務局の事務事業に対する点検及び評価

南アルプス市では南アルプス市総合計画の進行管理を行うための手法として、行政評価システムを取り入れ、すべての事務事業に対して「事務事業マネジメントシート」を作成し、内部評価を実施しています。

点検及び評価に関しては、この行政評価システムを活用し、南アルプス市教育委員会に属する事務事業の執行状況等について振り返り、取りまとめを行いました。また、平成 29 年 4 月に策定した「南アルプス市の教育振興プラン」との関連について、施策の体系にある 8 つの施策に該当する番号を事務事業ごとに表示しました。

ただし、事業選択や予算規模に自由裁量がない「国・県の制度による義務的事業」や「義務化されている協議会等の負担金に係る事業」については、対象外としました。

- | |
|-----------------------------------|
| ①事務事業総数：175事業 |
| ②点検及び評価した事務事業：124事業 |
| ③点検及び評価から除いた事務事業：51事業 |
| ※義務的事業及び義務化されている協議会等の負担金に係る事業を除く。 |

3 評価の点数表

評価の点数は、「5」から「1」までの5段階評価で行いました。

5	目的をはるかに超え達成、他への波及効果などが見られる。
4	目的以上に達成
3	目的どおり達成
2	目的までは達成できなかった。
1	目的までまったく達成できなかった。

II 点検及び評価のまとめ

1 教育委員会の活動に対する点検及び評価 (P13、2(1)～P14、2(5)の5項目の平均)

平均評点：3.4

教育委員会定例会を12回、臨時会を1回開催しました。定例会では、条例等の制定改廃、重要案件の審議、教育委員会所管の各種委員会等の委員の選任を行いました。

教育委員会事務局業務では、教育委員会定例会や総合教育会議等で効率的な会議運営を図るため、出席者に対し、議案や資料を事前配布しました。

研修会等への参加や学校訪問では、教育行政課題への対応、学校現場の現状と課題の把握ができました。

2 教育委員会事務局の事務事業に対する点検及び評価

(1) 基本政策 : 1 安全でみどり豊かな人がつながるまちの形成

施策名 : 02 市民参加のまちづくり (P18、施策02の3事業の平均)・・・平均評点：3.0

「青少年対策事業」の国内交流・交流支援事業では、夏休み期間を利用し、友好姉妹都市交流事業を実施している3つのまちの児童生徒による交流を行いました。

北海道津別町とは、市内の小学生が津別町を訪問し、東京都小笠原村とは、中学校2年生による訪問団を受入れ、昨年、小笠原村を訪問した若草中学校の生徒や、ジュニアリーダー養成研修を受けている中高校生も参加して交流を深めました。

また、石川県穴水町とは、小学校6年生による訪問団を受入れ、豊小学校の児童が交流を行いました。これらの交流を通じて、「異なる地域での体験を通して視野を広げること」、「友好関係を深めること」、「外から見た南アルプス市の良さに気づき学ぶこと」等、地域や学校の異なった児童生徒との関わりを通し、積極性や協調性を学ぶことができました。

(2) 基本政策 : 4 心豊かな人と文化をはぐくむまちの形成

施策名 : 19 生涯学習の振興 (P18～施策19の42事業の平均)・・・平均評点：3.0

「公民館運営」では、公民館の館長、主事が中心となり、地域の実情にあった公民館活動を実施しました。史跡巡りなど各地区にあった多彩な事業を実施し、地域再発見・文化の振興が図られました。

また、「生涯学習推進事業」では、数多くの学習機会の提供や、自主的な学習の支援に努めました。今年度はユネスコエコパークコラボ企画など新たな講座を企画し受講者から好評を得ることができました。市民が各種講座を通じて学ぶ喜びを感じられる環境づくりに取り組み生涯学習活動の促進を図りました。

「スポーツ推進委員運営事業」、「南アルプス市体育協会支援事業」では、スポーツ推進委員及び市体育協会への支援により各種のスポーツ教室や大会が開催され、多くの市民が参加しました。

「体育施設整備事業」では、八田農業者トレーニングセンターの非構造部材耐震化工事を実施しました。大地震による強い揺れに備えて、天井板の撤去や窓ガラスの飛散防止を行ったことで、利用者が安心・安全に使用できると考えています。

「各種社会教育施設」では、直営施設及び指定管理者制度導入施設ともに、効率的な管理運営に努めました。

「市立図書館」では、「ブックスタート」「おはなし会」など、子どもたちが小さいときから読書に親しみ、読書習慣を身につけられるような定期的事業のほか、「子ども講演会」「図書館クイズラリー」「ビブリオバトル」などを展開しました。また、ブックスタート事業の発展として、小学校新入学児童に本を手渡す活動「セカンドブック事業」を継続し、秋の読書週間中に市内小学校1年生全員に本を贈ることができました。

一般向けには、「朗読会」「講演会」「シニア講座」「大人のためのおはなし会」などを開催し、市民の幅広いニーズを支援しました。ふるさと人物室では、南アルプス市にゆかりのある人物の企画展や講演会・フォーラムを行い、ふるさと教育の推進を図りました。

3月の新型コロナウイルス感染症対策による臨時休館のため、資料貸出数や利用者数等で前年度と比べて数値が下回りましたが、休館期間以前の比較では前年度を上回りました。

市立美術館では、新規事業として「教育普及事業」の推進に取り組みました。新たに整備した研修室を主会場として市内中学生等と連携したワークショップをはじめ、保育所や小学校の見学に合わせた体験講座を開催し、博学連携の強化を図りました。また、市民ギャラリーの貸出しも開始し、幅広く作品発表の場を提供することが出来ました。

魅力ある企画展や多彩な常設展に合わせた教育普及事業の実施、更には市民ギャラリーの活用により年間来館者は35,818人となり、多くの皆様が芸術・文化を親しむ機会となりました。

(3) 基本政策 : 4 心豊かな人と文化をはぐくむまちの形成

施策名 : 20 歴史・伝統文化の振興 (P23～施策20の18事業の平均) ・ 平均評点 : 3. 1

「文化財の保護」では、所有者・管理者への適切な助言や補助事業の実施などでこれに努める一方、「教育普及事業」を実施し、実施回数は213回、参加延べ人数10,549人を数えました。内訳は小中学校等に出向き授業を行った回数が118回、教職員向けの研修が12回、その他一般向けの講座等が83回でした。

「埋蔵文化財」では、市域における公共事業や民間開発と調和した遺跡の保護を図るために、適時適切な試掘確認調査等の実施に努めました。本年度の試掘調査の実施件数は27件、工事立会件数は124件でした。また、史跡整備に関連して、国指定史跡御勅使川日堤防のうち榊形堤防の発掘調査が行われ、新たな知見や事実が明らかになっています。

「ふるさと文化伝承館」は、大規模改修事業のために休館していましたが、5月18日にリニューアルオープンしました。ふるさと〇〇博物館推進事業と連携した新たな展示やイベントを行うなどして、3月の新型コロナウイルス感染症対策による休館があつたにもかかわらず、年間の

入館者は8,339人となり、これまでで最多となりました。

「安藤家住宅管理運営事業」、「同イベント開催事業」では、重要文化財としての「安藤家住宅」の価値を損なわないよう適切に管理しながら、地域文化発信の拠点として利用してもらえるよう毎月イベントを開催し活用を図りました。しかし、入館者数については、例年最も多くの入館者を集めるイベント「ひな祭」の期間中に、新型コロナウイルス感染症対策により休館したこともあり3,850人、前年比28%の減にとどまりました。

「ふるさと〇〇（まるまる）博物館推進事業」では年次計画に基づき、今年度は、若草地区を集中調査地区として、古文書、建造物、そして地域でのオーラルヒストリー（口承）の採取などを行い積極的に活動しました。地域資源のデジタルアーカイブへの登録件数も順調に増え、令和元年度末時点で423件となっています。また本年度は、これまでの成果を反映した一般向けの冊子の刊行も行いました。

社会教育団体に認定された地域の伝統文化活動への支援により、活動の活性化を促進し伝統芸能等の保存・継承が図られました。

小笠原流礼法については、市内保育所等の年長児を対象に11施設で22回、一般市民を対象に9回の講座を開催し、本市を発祥とする小笠原流礼法の普及推進に寄与しました。

(4) 基本政策 : 4 心豊かな人と文化をはぐくむまちの形成

施策名 : 21 学校教育の充実 (P25～施策21の52事業の平均) 平均評点 : 3. 1

「育英奨学会事業」では、適正な事務の執行に努め、目的に合致した奨学生の選考を行いました。

「芦安小中一貫学校整備事業」では、芦安小学校と芦安中学校を渡り廊下で接続するための工事を行いました。

「小学校施設設備整備事業」では、市立15小学校の既存施設・設備の維持管理や、環境改善のための改修及び更新を行いました。

「空調設備設置事業（小学校施設）」では、小学校14校の特別教室にエアコンを設置するための工事を行い、7月から使用できるように整備しました。

「落合小学校校舎大規模改造事業」では、経年劣化による校舎の損耗や、機能低下に対する復旧措置及び建物の耐久性確保のための工事を行いました。

「小笠原小学校屋内運動場改修事業」では、老朽化が進んでいるアリーナ床の全面改修を行いました。

「中学校施設設備整備事業」では、市立7中学校の既存施設・設備の維持管理や、環境改善のための改修及び更新を行いました。

「楡形中学校校舎屋上防水改修事業」では、雨漏りが発生している管理・教室棟と特別教室棟の屋上防水の改修を行いました。

「就学援助事業」においては、小中学校に通う経済的に恵まれない児童・生徒への適切な支援を行いました。

「市指定研究事業」では4つの指定校研究事業に取り組みました。1つ目の「学びの質を高める授業づくり推進事業」については、3校（大明小：2年目、八田中：1年目、八田小：2年目）を指定校とし、児童・生徒がお互いの考えや表現を聴き合い、学び合う授業づくりについて研究を推進しました。2つ目の「南アルプス自然体験推進事業」については、ユネスコエコパークに認定されている芦安小・中学校を指定校とし、事業を展開しました。南アルプスの自然を舞台とした登山や各種の体験活動を実施し、ふるさとを愛する心や人間性を育む取り組みを行いました。3つ目の「いじめ・不登校未然防止推進事業」については、市内全小中学校でQ-U検査を実施し、学級状態の把握を行い、支援を必要としている児童・生徒への早期対応を図りました。4つ目の「小中学校における小笠原流礼法推進事業」については、師範を全小中学校に派遣し、礼法を取り入れた心の教育を推進するとともに、全小中学校で礼法に則った卒業証書授与式を行いました。

「市単講師派遣事業」では、34名の市単講師（内1名は事務職員）を小中学校へ配置し、多人数学級への対応、複式学級の解消、特別支援教育の推進、基礎学力の向上及び一人ひとりの特性に応じたきめ細かな指導の充実等を図りました。

「教育支援センター事業」では、学校へ登校することが困難な児童生徒が通う適応指導教室において、家庭や学校と連絡を取りながら学校復帰を目指して、学習支援、教育相談を行いました。

「外国語指導講師配置管理事業」では、小中学校にアドバイザー1名と11名のALTを配置し、「聞く・話す」ことを中心に指導を行い、児童生徒のコミュニケーション能力の向上を図ることができました。また、生の英語に触れる中で、他国の文化や外国語（英語）に親しみをもち、国際的な理解を深めることに努めました。

「小中一貫教育研究推進事業」においては、八田地区・芦安地区で小中一貫校をスタートさせ、推進協議会で成果と課題について話し合いました。また、他地区でも八田・芦安地区に学び、一貫校設置に向けての取り組みを進めました。

「教育環境づくり」においては、「スクールガードリーダー事業」や地域ボランティアを活用した「学校応援団育成事業」に取り組み、児童・生徒の安全確保や教育活動全体の充実を図りました。

「学校給食費支援事業」では、小中学校へ3名以上の子どもが通っている保護者184名に対し助成を行いました。

「各学校給食」では、アレルギーマニュアルに基づき、児童・生徒のアレルギー食への対応を実施しました。給食費の未納については教育的配慮のもと、私債権管理条例について説明し督促をしながら給食費の徴収を行いました。また、給食費を滞納している保護者からは同意を得た上で、児童手当からの徴収を行ないました。さらに3者懇談時に保護者との面談を行い、給食費の納付を促しました。

(5) 基本政策 : 4 心豊かな人と文化をはぐくむまちの形成

施策名 : 22 青少年の健全育成 (P30、施策 22 の 9 事業の平均) 平均評点 : 3. 0

「青少年対策事業」では、青少年育成南アルプス市民会議で実施する事業や子ども活動、イベントへの支援、また、南アルプス市子どもクラブ指導者連絡協議会への支援を行い、青少年育成推進員、学校、家庭、地域関係団体が連携する中で、心身ともに健やかな次代を担う青少年の健全育成を図りました。また、「成人式挙行事業」においては、桃源文化会館に712人の新成人を招き、成人の門出を祝いました。

また、地域や学校で、リーダーとして活躍する子どもを育成する目的で「ジュニアリーダー養成事業」として、市内の中・高校生を対象に月1回のリーダー研修を開催しています。各地区から参加者が集まり、一緒に活動することにより、地域を超えて仲間意識が広がり、それぞれが、学校の生徒会役員や国内友好姉妹都市交流事業に参加するなど、互いを高め合いながら成長することに繋がりました。夏休み期間中には、ジュニアリーダーによる自主的な企画・運営による夏季研修を実施し、次年度の新たなジュニアリーダー候補として小学6年生を募集し、総勢50人の参加がありました。

Ⅲ 教育委員会の活動についての点検及び評価

1 教育委員会の活動状況

教育委員会は、教育行政の中立性・安定性を確保するため、地方公共団体の長から独立して設置されています。

平成27年4月1日施行の「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律」により現在、教育委員会の構成は教育長と5人の委員で構成しています。

(1) 教育委員会の定例会・臨時会

教育委員会は、原則として、毎月会議を開催しており、合議により教育行政の基本方針や重要事項などを審議し決定しています。

また、必要に応じて、随時、臨時会も開催しています。

○開催状況・定例会 12回、臨時会 1回

開催月日 (区分)	案件区分	件名
4月16日 (定例会)	議事	<ul style="list-style-type: none"> ・南アルプス市社会教育委員の委嘱について ・南アルプス市公民館運営審議会委員の委嘱について ・南アルプス市中央公民館長、地区分館長及び主事の任命について ・南アルプス市スポーツ推進委員の委嘱について ・南アルプス市図書館協議会委員の委嘱について
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・指定学校変更の許可状況について ・緊急連絡網について ・南アルプス市教育委員会年間（前期）及び4・5月行事予定について
5月14日 (定例会)	議事	<ul style="list-style-type: none"> ・南アルプス市奨学金貸与奨学生の決定について ・南アルプス市社会教育委員の委嘱について ・南アルプス市中央公民館長、地区分館長及び主事の任命について ・南アルプス市文化財保護審議会委員の委嘱について ・消費税率及び地方消費税率の引上げに伴う関係条例の整備について
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・指定学校変更の許可状況について ・南アルプス市教育委員会5・6月行事予定について
6月12日 (定例会)	議事	<ul style="list-style-type: none"> ・南アルプス市子どもの読書活動推進協議会委員の委嘱又は任命について ・南アルプス市ふるさと人物室運営委員の任命について
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・指定学校変更の許可状況について ・南アルプス市教育委員会6・7月行事予定について
7月11日 (定例会)	議事	<ul style="list-style-type: none"> ・南アルプス市社会教育団体の認定について
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・指定学校変更の許可状況について ・南アルプス市教育委員会点検及び評価報告書の作成について ・南アルプス市教育委員会7・8月行事予定について

8月8日 (定例会)	議事	<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度使用小学校教科用図書の採択について ・南アルプス市立学校給食センター運営委員会委員の委嘱又は任命について
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・南アルプス市教育委員会点検及び評価報告書について ・指定学校変更の許可状況について ・南アルプス市教育委員会8・9月行事予定について
9月12日 (定例会)	議事	<ul style="list-style-type: none"> ・南アルプス市教育施設長寿命化基本計画の策定について ・南アルプス市美術館協議会委員の委嘱について ・南アルプス市白根B&G海洋センター条例施行規則の一部改正について
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・南アルプス市教育委員会点検及び評価報告書について ・南アルプス市の教育振興プランの進捗状況について ・指定学校変更の許可状況について ・南アルプス市教育委員会9・10月行事予定について
10月16日 (定例会)	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・指定学校変更の許可状況について ・南アルプス市教育委員会年間予定表(後期)及び10・11月行事予定について
11月6日 (定例会)	議事	<ul style="list-style-type: none"> ・南アルプス市小中一貫教育推進協議会条例の制定について ・指定学校変更の許可について ・公の施設の指定管理者の指定について
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・指定学校変更の許可状況について ・南アルプス市教育委員会11・12月行事予定について
12月18日 (定例会)	議事	<ul style="list-style-type: none"> ・南アルプス市教育施設長寿命化計画第1次実施計画(令和2年度～令和6年度)の策定について ・南アルプス市教育委員会事務決裁規程及び南アルプス市青少年育成コーディネーター規程の一部改正について ・南アルプス市教育支援センター設置要綱を廃止する告示について ・南アルプス市教育支援センター規則の制定」について ・南アルプス市療養等代替教職員設置要綱の一部改正」について ・指定学校変更の許可について
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・指定学校変更の許可状況について ・南アルプス市教育委員会12・1月行事予定について
1月15日 (定例会)	議事	<ul style="list-style-type: none"> ・南アルプス市ふるさと人物室運営委員会委員の委嘱について
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・指定学校変更の許可状況について ・南アルプス市教育委員会1・2月行事予定について

2月19日 (定例会)	議事	・南アルプス市ふるさと人物室運営委員会委員の委嘱について
	その他	・指定学校変更の許可状況について ・南アルプス市教育委員会2・3月行事予定について
2月28日 (臨時会)	議事	・新型コロナウイルス感染症対策に伴う教育施設の臨時休館について
	その他	・市立小、中学校の臨時休業について
3月18日 (定例会)	議事	<ul style="list-style-type: none"> ・南アルプス市教育委員会事務局等組織規則の一部改正について ・南アルプス市総合教育会議運営要綱の廃止について ・南アルプス市立小、中学校管理運営に関する規則の一部改正について ・南アルプス市立小中学校共同学校事務室運営規程の制定について ・南アルプス市立小中学校共同学校事務室協議会規程の制定について ・南アルプス市立学校処務規程の一部改正について ・南アルプス市教育委員会がサービスを監督する教育職員の業務量の適切な管理等に関する規則の制定について ・南アルプス市通級指導教室要綱の制定について ・南アルプス市教育相談員設置要綱の一部改正について ・南アルプス市社会教育委員の解嘱及び委嘱について ・南アルプス市スポーツ推進委員の解嘱及び委嘱について ・新型コロナウイルス感染症対策に伴う教育施設の臨時休館について ・南アルプス市教育委員会教育長の辞職の同意について
	その他	・指定学校変更の許可状況について ・南アルプス市教育委員会3・4月行事予定について

(2) 総合教育会議

総合教育会議は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律」により、平成27年6月から開催しています。会議については市長が招集し、市長、教育長、教育委員の構成により、市長と教育委員会との対等な執行機関同士の協議・調整を行っています。

○開催状況・・・年2回

開催月日	案件区分	件名
8月21日	協議事項	・特別支援教育について
1月31日	協議事項	・南アルプス市立美術館の現状と今後について ・南アルプス市ふるさと文化伝承館の現状と今後について

(3) 学校訪問

教育委員会では例年、5月～6月にかけて市立小中学校22校を訪問し、子どもの様子や教員の指導方法など、細やかに見て回っています。視察終了後は、学校側と意見交換を行い、課題があれば改善するよう助言などを行っています。

(4) 研修会等への参加

教育委員会では、各種研修会、総会及び大会等に積極的に参加し、教育行政に関する情報収集や各市町委員との意見交換等を行い、各自の資質向上に努めています。

1 中北地区教育委員会連合会

月日	件名	出席者
4月26日	平成31年度定期総会及び研修会	教育委員・教育長
9月4日	第1回理事会	教育長・教育長職務代理
2月17日	第2回理事会	教育長・教育長職務代理

2 山梨県市町村教育委員会連合会

月日	件名	出席者
7月29日	第1回理事会	教育委員
10月30日	秋季研修会	教育委員・教育長
2月14日	第2回理事会	教育委員
2月19日	定期総会及び春季研修会	教育委員・教育長

3 県外研修

月日	件名	出席者
5月31日	関東甲信越静市町村教育委員会連合会定期総会並び研究大会（山梨県北杜市）	教育委員・教育長
10月11日	中北地区教育委員会連合会 教育事情県外視察研修（東京都千代田区）	教育委員・教育長
11月14日	南アルプス市教育委員会県外研修（東京都）	教育委員・教育長

その他各種大会・行事への出席 ※全教育委員が出席対象のみ掲げております。

月日	件名
4月	市内小中学校入学式
4月3日	市立美術館「北村清巳展」オープニングセレモニー
4月14日	南アルプス桃源郷マラソン大会
5月21日	青少年育成南アルプス市民会議総会
7月12日	市立美術館「いわさきちひろ展」オープニングセレモニー

月日	件名
10月20日	市制施行17周年記念式典
10月24日	中北地区教育フォーラム
11月	市内一斉あいさつ運動（小中学校対象）
11月6日	芦安小中英会話科 学校説明会
11月20日	県市町村教育委員会教育長・教育委員会議
11月22日	公開研究会（八田小学校）
11月25日	公開研究会（八田中学校）
11月27日	拡大校内研究会（若草南小学校）
12月15日	市立美術館「山梨の日本酒展」オープニングセレモニー
1月12日	成人式
1月30日	中北地区地域教育推進連絡協議会 教育フォーラム
2月19日	研究発表会・教育講演会

2 教育委員会の活動に対する点検及び評価

教育委員会としての自らの活動内容を「教育委員会の定例会議・臨時会」、「総合教育会議」、「教育委員会と事務局の連携」、「教育委員の自己研鑽」及び「学校など教育施設や教育活動への支援」の5項目に分け、それぞれに点検項目を設け、教育委員自らがその目的に照らし、評価を行った上で評点し、意見を記載しました。

また、その他の意見シートにおいては、教育委員会事務局の活動の中で、特に気がついた点を記載しました。

(1) 教育委員会の定例会議・臨時会

点検項目	会議の開催回数	評点	3.0
実績	<ul style="list-style-type: none"> ○定例会 12回、臨時会 1回 ・教育委員会会議規則に基づき、定例会を毎月1回開催した。更に必要が生じたため、臨時会を1回開催した。 ・限られた時間の中、慎重且つ効率的な会議運営を図った。 		
評価の視点	<ul style="list-style-type: none"> ①会議は全て予定どおりに開催され、議案はいずれも慎重且つ効率的な審議を行った。 ②必要な会議の回数は確保されている。 ③新型コロナウイルス感染症対策に伴う臨時会も適切な時期に開催された。 		

(2) 総合教育会議

点検項目	会議の開催回数	評点	3.0
実績	<ul style="list-style-type: none"> ○年2回 ・市長招集のもと会議を開催した。 ・市長と教育委員会の連携強化、協力体制による教育行政推進を図ることが可能となった。 ・教育行政の諸問題等について、限られた時間の中で、効率的な会議運営に努めた。 		
評価の視点	<ul style="list-style-type: none"> ①市長と教育委員会が、教育行政に関わる重要な政策・課題等を直接意見交換できる機会であり教育行政推進に貢献できる有意義な会である。 ②学校現場の一番の課題とも言える特別支援教育について、総合教育会議で取り上げたことは良かった。また、特別支援やICTの活用などの教育に力をそそいでいくことが、子どもたちの将来に大きく関わってくることなどを分かってもらえる良い機会になった。 ③文化施設の現状を詳しく知ることができ、更に有効活用できる施策について考えることができた。 		

(3) 教育委員と事務局との連携

点検項目	情報提供等	評点	3.8
実績	<ul style="list-style-type: none"> ・議案や資料を事前に配布することで、会議等までの調査研究が可能となるよう、情報提供を行った。 ・会議日程についても、事前調整を図り、可能な限り出席できるよう連絡調整を行った。 ・参考資料等の情報提供についても適切に行った。 		
評価の視点	<ul style="list-style-type: none"> ①会議資料等の事前送付により議題内容を検討することができ、問題意識をもって会議に臨むことができた。また、資料内容もよく整理されていた。 ②各種資料や情報提供などにより、事務局と連携して審議事項や課題に対応することができた。 ③会議の日程など細かく配慮いただき、常に連携がとれていたと感じる。 		

(4) 教育委員の自己研鑽

点検項目	研修会等への参加	評点	3.8
実績	<ul style="list-style-type: none"> ・関東甲信越静市町村教育委員会連合会研修に参加した。 ・中北地区教育委員会連合会県外研修に参加した。 ・南アルプス市教育委員会県外研修に参加した。 ・その他 各種研修会、会議へ参加した。 		
評価の視点	<ul style="list-style-type: none"> ①各種研修会に参加することで、他地域の教育行政に関する実情や活動内容等の知見を深めるとともに、教育委員としての資質向上に有意義であった。 ②県外研修は学校教育分野、文化施設の視察と多方面にわたり研修を深められた。今後もバランスの良い研修を望む。 ③他地域の実情を知ることにより、今の南アルプス市の課題や進んでいるところを再認識でき、理解を深めることができた。 		

(5) 学校など教育施設や教育活動への支援

点検項目	学校訪問	評点	3.5
実績	<ul style="list-style-type: none"> ・市内の小中学校 22 校の学校訪問を行い、各学校の特色ある学校経営の取り組み状況を聴取した。 ・各教室の授業内容を視察し、給食の試食をする中で、学校現場との意見交換を図った。 		
評価の視点	<ul style="list-style-type: none"> ①各学校の児童生徒の実態や教職員の指導力、施設設備の様子など、学校現場の現状や抱えている課題を理解することができた。教育委員として、これからどのような支援ができるのか考える機会ともなった。 ②各学校の特色もあるなか、市全体として中学校区ごとから小中一貫教育が浸透してきている感じがした。 ③施設関係の喫緊の課題は、担当者から直接話を聞くことにより迅速に対応できると感じた。 		

(6) その他の意見シート

意見	<p>①新型コロナウイルス感染症対策では、学校をはじめ教育委員会各課の対応は迅速かつ適切に行われていたと感じた。</p> <p>②年度末にかけては、新型コロナウイルス感染症対策のため、多くの時間と工夫をされたと思う。どの段階においても、すべては子どもたちの安全と安心のために、という視点から協力を惜しまず対応にあたってくれた全教職員と教育委員会の職員の方々に感謝する。</p> <p>③新型コロナウイルス感染症対策のため、しばらくは事業の見直しが多くなると思う。しかし、感染症対策のため再考できることも多く、特にICT環境の充実、学校教育への人材派遣、事業の精選等悪いことばかりではないと思うので、その様な中で苦労も多いと思うが、尽力いただきたい。</p> <p>④本市では、全地域で「小中一貫教育」に取り組んでいる。管理職だけでなく、教職員全員がこの課題をしっかりと捉え、明確な意識を持ち、目指す南アルプス市教育の実現に向け取り組んでいただきたい。</p> <p>⑤教職員の質、授業の改善などはかなり向上してきていると感じる。今後ICTを活用し、さらに充実、向上していくことを願う。</p> <p>⑥これからの地域社会を担っていく子どもたちを育むために、学校教育や地域の教育力を活用し、学びの力を高め、心豊かで地域の文化を大切にする児童生徒の育成に、教育委員会を中心に関係諸団体が協力し合って取り組む姿勢に感謝する。</p>
----	---

IV 教育委員会事務局の事務事業についての点検及び評価

1 教育委員会事務局の事務事業について

南アルプス市では、南アルプス市総合計画を策定し「自然と文化が調和した幸せ創造都市・南アルプス」という将来像を掲げています。教育委員会部門においては、この将来像の実現のため、二つの基本政策が設けてあります。

一つ目の基本政策を「安全でみどり豊かな人がつながるまちの形成」とし、その施策名を「市民参加のまちづくり」としております。

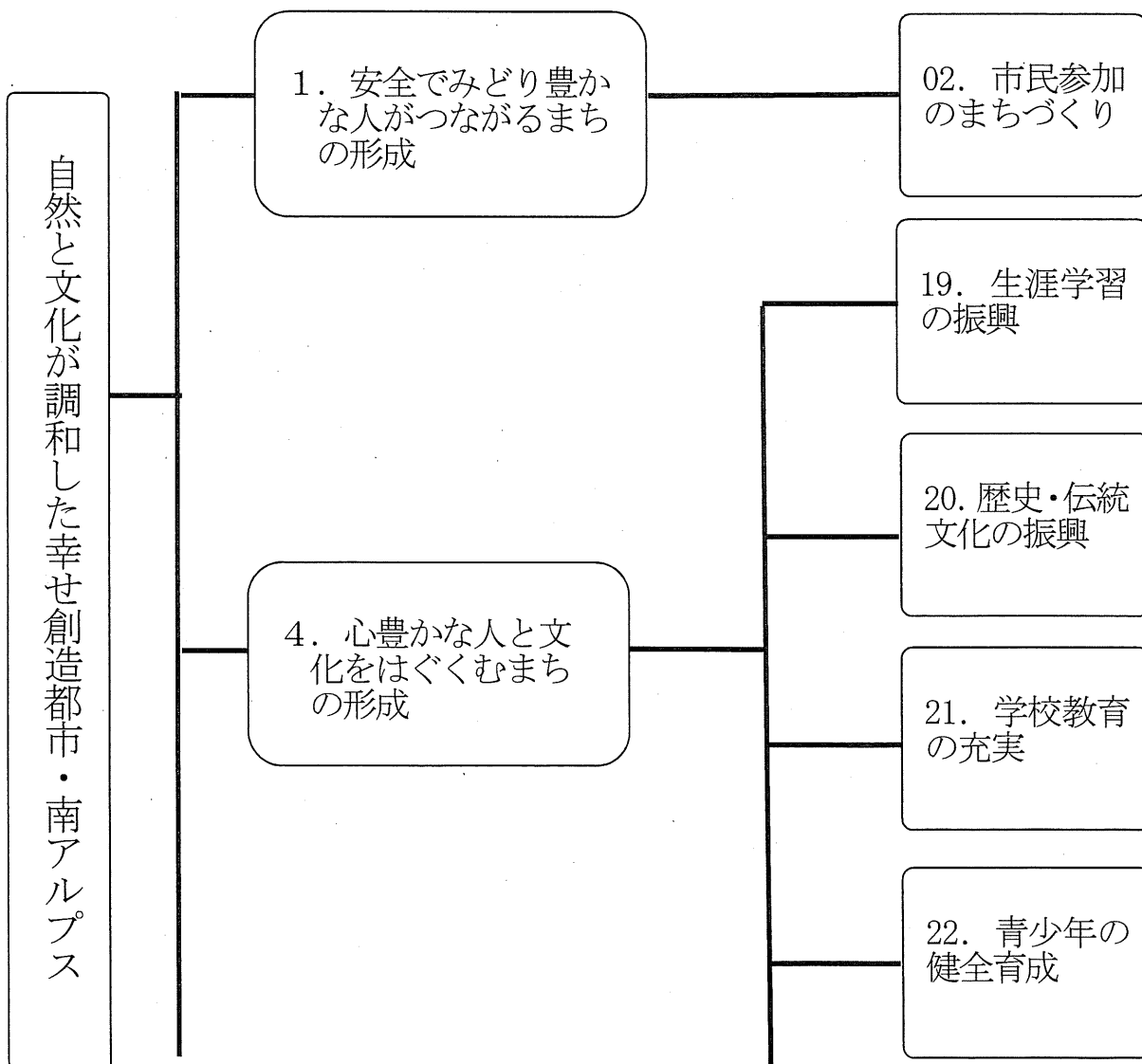
二つ目の基本政策は「心豊かな人と文化をはぐくむまちの形成」とし、その施策名を「生涯学習の振興」、「歴史・伝統文化の振興」、「学校教育の充実」、「青少年の健全育成」としています。

2 第2次南アルプス市総合計画 体系（教育委員会関係抜粋）

〔将来像〕

〔基本政策〕

〔施策名〕



3 南アルプス市の教育振興プラン 体系 (抜粋)

目指す姿	基本目標	施策	施策の柱	
<p>南アルプス市の未来を創る人づくり</p> <p>～生きる力を育み、ふるさとを愛する心を培う、南アルプスの教育</p>	<p>未来を切り拓く学校教育の充実</p>	1 確かな学力の育成	① 個に応じたきめ細かな指導 ② 社会情勢に対応した教育 ③ 特別支援教育の充実	
		2 豊かな心の育成	① ふるさと教育の推進 ② 道徳教育の充実 ③ 一人ひとりを大切にした教育・指導体制の充実	
		3 健やかな体の育成	① 子どもの体力向上 ② 食育・健康教育の推進	
		4 学びを支える環境の整備	① 教職員の資質・能力向上 ② 地域・家庭と連携した学校づくり ③ 小中一貫教育の推進 ④ 学校教育施設・設備の整備・充実 ⑤ 経済的支援の充実	
	文化の振興	<p>歴史・伝統 郷土の</p>	5 地域文化の継承とふるさと教育の推進	① 地域資源の保存・活用 ② ふるさと教育の推進
	<p>生涯にわたる学習環境の整備・充実</p>	6 生涯学習の推進	① 学習機会や情報の提供・充実 ② 学習の成果を活かす環境づくり ③ 市民主体の活動支援 ④ 生涯学習拠点の整備 ⑤ 読書活動の推進	
		7 子どもの成長を支える環境の整備	① 地域ぐるみで子どもを育む環境づくり ② 青少年の健全育成の推進 ③ 放課後の子どもの居場所づくり	
		8 スポーツ・レクリエーションの振興	① 生涯スポーツ活動の推進 ② 人材の育成と団体支援 ③ スポーツ施設の整備・充実	

4 教育委員会事務局の事務事業に対する点検及び評価について

(1) 基本政策 : 1 安全でみどり豊かな人がつながるまちの形成

施策名 : 02 市民参加のまちづくり (3事業)

所属 : 生涯学習課

事務事業名	評点	評価の視点	教育振興 プラン 施策番号
青少年国内交流事業 (津別町)	3	令和元年度は、小学生17人が参加し、津別町を訪問した。かわ塾と題した自然体験プログラムを通し、網走川に生息している生物を捕獲しての観察や、川流れを体験した。また、農場では、ブルーベリーや枝豆の収穫体験を行った。	6
青少年国内交流・交流 支援事業 (小笠原村)	3	令和元年度は、中学生20人を受け入れた。エコパ伊奈ヶ湖での自然体験や桃狩りなど本市を満喫した。まちの紹介では、小笠原氏の源流を知る貴重な機会となり、リニア見学センターや富士山ドームなどの見学もできた。	6
青少年国内交流・交流 支援事業 (穴水町)	3	令和元年度は、小学生23人を受け入れた。天候に恵まれ、桃狩りや、仙水峠登山を参加者全員で体験し、貴重な植物の観察や、水に恵まれた地域であること、地殻変動による変化に富んだ地形の見学など、貴重な体験ができた。	6

(2) 基本政策 : 4 心豊かな人と文化をはぐくむまちの形成

施策名 : 19 生涯学習の振興 (42事業)

所属 : 生涯学習課

事務事業名	評点	評価の視点	教育振興 プラン 施策番号
公民館運営管理事業	3	公民館長、主事が中心となり、各地区の公民館活動を実施し、市民の文化向上を図った。令和元年度は2,174人の参加があった。史跡巡りなど各地区にあった多彩な事業を行うことができ地域再発見・文化の振興が図られた。	6
生涯学習推進事業	3	市民の学習機会の充実を図り、自主的な学習活動を支援した。講座35回を実施し、参加者698人であった。前例にとらわれず今までに実施したことのない新たな講座を企画し受講者から好評を得ることができた。	6
社会教育関係団体活動 支援事業	3	各地域の社会教育団体21団体に対し補助金を交付することで団体の活動が活発化し、市民が積極的に社会教育活動に参画する機会をつくり、地域の活性化につながっている。	6
八田高度農業情報セン ター運営管理事業	3	八田中央公民館機能を有し、また指定管理者が施設を快適に利用できるよう努めており、年間利用人数は16,609人である。市民が安心して利用できるよう適切且つ効率的な管理運営に努めた。市の文化施設の利用しやすさを指標とし、否定的回答は18.5%となっており、施設の利用環境は充実している。	6

所属 : 生涯学習課

事務事業名	評点	評価の視点	教育振興 プラン 施策番号
若草生涯学習センター 運営管理事業	3	若草中央公民館及び生涯学習センター機能を有し、また指定管理者が、施設利用の向上のため工夫し運営することで、年間利用人数は42,308人と多くの市民が利用している。市民が安心して利用できるよう適切且つ効率的な管理運営に努めた。市の文化施設の利用しやすさを指標とし、否定的回答は18.5%となっており、施設の利用環境は充実している。	6
甲西農村環境改善センター 運営管理事業	3	市直営施設として運営し、シルバー人材センターへ管理委託している。年間利用人数13,549人。市民が安心して利用できるよう適切且つ効率的な管理運営に努めた。市の文化施設の利用しやすさを指標とし、否定的回答は18.5%となっており、施設の利用環境は充実している。	6
ふるさと天文館運営管理 事業	3	ふるさと天文館運営協会を活用し、50cmの望遠鏡を使って天体及び天文現象等の観測及び解説を実施することにより、生涯学習機会の増進を図った。利用者数278人。	6
橿形北地区農村環境改善 センター運営管理事業	3	市直営施設として運営し、シルバー人材センターへ管理委託している。年間利用人数3,143人。施設も老朽化しているが快適な施設環境の維持に努め、市民が安心して利用できるよう適切な管理運営を図った。市の文化施設の利用しやすさを指標とし、否定的回答は18.5%となっており、施設の利用環境は充実している。	6
橿形西地区農村環境改善 センター運営管理事業	3	市直営施設として運営し、シルバー人材センターへ管理委託している。年間利用人数1,247人。施設を快適に利用できるよう修繕対応等も早急に行い、市民が安心して利用できるよう適切な管理運営に努めた。市の文化施設の利用しやすさを指標とし、否定的回答は18.5%となっており、施設の利用環境は充実している。	6
南アルプス市働く婦人の 家運営管理事業	3	市直営施設として運営し、シルバー人材センターへ受付業務及び清掃業務を委託している。年間利用人数5,668人。市民が安心して利用できるよう適切な管理運営に努めた。市の文化施設の利用しやすさを指標とし、否定的回答は18.5%となっており、施設の利用環境は充実している。	6
生涯学習指定管理施設 等維持補修事業	3	生涯学習施設の緊急修繕や維持補修を実施し、市民が安心して利用できるよう適切な管理運営に努めた。修繕10箇所、7,793千円を実施。	6
桃源文化会館運営管理 事業	3	指定管理者が、市民が生涯学習の場として安心して利用できるよう適切な管理運営に努めた。年間利用人数は100,609人。市の文化施設の利用しやすさを指標とし、否定的回答は18.5%となっており、施設の利用環境は充実している。	6
桃源文化振興協会運営 支援事業	3	専門性のある一般財団法人桃源文化振興協会職員の人件費を補助（運営支援）し、芸術・文化の振興の拠点としての機能を発揮し、市民が文化・芸術に触れる機会を充実させ、施設の有効活用を促進している。	6
市文化協会活動支援事 業	3	桃源文化振興協会へ事務を委託しており、各地区の文化団体（令和元年度107部1,771人、平成30年度108部1,773人）に補助金を交付している。市内各文化団体の活動を財政支援し、芸術文化の普及振興を図った。生涯にわたって学習活動を行っている割合は30.6%（肯定、やや肯定）で、前年比0.8ポイント増となった。	6

所属 : 生涯学習課

事務事業名	評点	評価の視点	教育振興 プラン 施策番号
スポーツ推進委員運営事業	3	スポーツ推進委員が行う教室、大会の参加者数を成果の指標とし、実施した。成果は平成30年度1,912人から令和元年度1,432人に、約25%減少している。原因は新型コロナウイルス感染症対策の影響による教室・大会の中止が考えられる。	8
南アルプス市体育協会支援事業	3	体育協会主催事業数を成果の指標とし、大会、教室を開催した。桃源郷マラソン大会、市駅伝大会他計11事業を実施した。	8
県外スポーツ大会出場支援事業	3	県代表として、県外大会へ出場する際の経費負担軽減のため、補助金を交付する。令和元年度は20件の申請があった。	8
南アルプス市ホームタウンゲームの活動支援事業	3	ヴァンフォーレ甲府の本市サンクスデーで特産品を配布しPRを実施した。また、山梨クィーンビーズのホームタウンゲームを開催し、ヴァンフォーレ甲府サンクスデーと同じく市のPRを実施した。	8
スポーツ大会等保険加入事務	3	各種スポーツ教室等の傷害保険に加入している。加入実績は、スポーツ推進委員の事業及びホッケーの事業で10件あった。	8
桃源郷マラソン大会活動支援事業	3	市内外からの参加者は7千人であり、マラソン大会は17回を数え定着してきている。	8
スキー・スノーボード教室開催事業	3	参加者数を成果の指標とし、初心者スキースノーボード教室を開催している。平成30年度は78人、令和元年度は50人が参加した。	8
社会体育施設指定管理事業	3	指定管理者に適正な管理運営を委託する事業で、社会体育施設等の利用者数は平成30年度587,637人、令和元年度は525,899人で前年比約11%減であった。原因は新型コロナウイルス感染症対策による休館、八田農業者トレーニングセンターの耐震工事、小笠原小体育館の床の張り替え工事による休館が考えられる。	8
甲西市民総合グラウンド機能回復事業	3	リニア中央新幹線建設工事に伴う甲西市民総合グラウンドの再整備に向け、グラウンドの拡張予定地にあたる事業所の移転先が決定したため、物件移転補償にかかる補償金の再算定を行った。	8
八田農業者トレーニングセンター改修事業	3	国の基準に基づく非構造部材の耐震化等を実施する事業である。平成30年度は実施設計をし、令和元年度に工事を実施した。	8
白根B&G海洋センター改修事業	3	プール棟からの塩素が原因と思われる腐食が体育館棟への通用口で散見されたため、体育館棟とプール棟の接続部分を切り離して建築物への影響を軽減した。令和元年度に実施設計及び接続部分の切り離し工事を実施した。	8
芦安調理場運営管理事業	3	芦安高齢者コミュニティセンター解体に伴い、その調理室機能を移転した、芦安調理場の運営管理経費。平成30年11月から供用開始、社協のおやつ作りや地域おこし協力隊等に利用され調理及び調理実習事業等を通じて、市民の交流と生涯学習の推進を図った。	6
ホッケー競技普及推進事業	3	6月と11月に、市内小学生を対象としたホッケー大会を実施し、白根地区の小学校4校と小笠原小が参加した。6月大会の優勝校(男子:白根源小 女子:白根百田小)は、7月に栃木県で開催された全国大会に参加した。	8

所属 : 市立図書館

事務事業名	評点	評価の視点	教育振興 プラン 施策番号
市立図書館運営事業	3	市立図書館の円滑な運営を行い、読書活動や学習活動を高めるため館内掲示や特集コーナーの充実を図った。また、ふるさと人物室を計画的に運営し、ふるさと教育の推進を図った。成果指標のレファレンス（調査相談）件数は6,428件で目標値には達しているが、新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う臨時休館の影響もあり、前年比5%減となった。	6
市立図書館資料提供事業	3	市内各図書館では、新聞39紙・雑誌366誌を市民に提供している。新聞・雑誌コーナーは大人気で多くの利用がある。雑誌の貸出数は27,747冊で臨時休館の影響もあり、前年比6.4%減となった。	6
市立図書館子どもの読書活動推進事業	4	おはなし会、図書館クイズラリー、環境講座、感想文おたすけ隊、子ども講演会等を開催し読書活動の推進を図った。成果指標である18歳以下の貸出点数は、84,982冊で前年比1.2%増となった。	6
図書館協議会運営事務	3	年3回、図書館協議会を開催し、市立図書館の運営について地域住民の声を反映させるとともに諮問に応じた。山梨県図書館大会にも参加し図書館の理解を深める良い機会となった。	6
図書館システム管理事業	3	定期的にシステム会議を実施し、図書館システムの安全な管理を行った。図書館システムの機器更新を行い、図書館サービスを迅速かつ円滑に利用者に提供できた。	6
図書館生涯学習推進事業	3	図書館講演会や定期的な朗読会のほか、シニア講座、教養講座等多様な学習機会を提供し、生涯学習支援及び図書館利用の拡大を図った。大人を対象とする図書館事業参加者数は4,238人で、事業中止(2/26～)の影響が大きく前年比15.5%減となった。	6
ブックスタート事業	3	健康増進課で実施している4ヶ月児健診時に、市内で生まれた全ての赤ちゃんと保護者420人（3月分延期）にブックスタートパックを配布した。「おはなし会0.1.2」の参加者は1,060人（2/26～中止）となった。平成29年度から開始した小学校1年生に本を手渡すセカンドブック事業は、市内全1年生577人に本を贈ることができた。	6
図書館資料購入事業	3	暮らしに役立つ資料及び地域資料等を市民に提供するため、選書会議を週1回行い、購入資料の検討により購入している。資料貸出総数は年間420,961冊（3/2～臨時休館）で前年度比4.5%減となったが、4～2月までの同総数は413,325冊で前年比3.1%増となった。	6
図書館事務研修事業	3	図書館の動向や資料情報を得て、図書館運営に反映させていくため研修会に積極的に参加した。学校図書館との合同研修会では「司書のスキルアップ」研修会を開催した。	6
楡形生涯学習センター管理事業	3	平成26年度から市の直営となり、効率的な管理・運営に努めている。あやめホールを中心に、利用者の満足度も高い。施設は開館から21年経過しており修繕箇所も多くなっているが、定期点検等を重ねながら安全で快適に利用できる環境を市民に提供することができた。	6

所属 : 市立図書館

事務事業名	評点	評価の視点	教育振興 プラン 施策番号
図書館司書臨時職員配置事業	3	市立図書館（5館1分館）の円滑な運営を図るために、司書臨時職員を配置し、効果的な図書館運営を行った。	6
白根生涯学習センター運営管理事業	3	白根生涯学習センター・白根桃源図書館は、平成30年7月に新設オープンし、効率的な管理・運営に努めている。大小5つの研修室があり利用も多い。	6

所属 : 市立美術館

事務事業名	評点	評価の視点	教育振興 プラン 施策番号
美術館企画展事業	3	企画展事業として、「いわさきちひろの世界」展と「アートになった猫たち」展を開催した。いずれの展覧会も関連イベントや体験講座を開催して入館者の増加に努め、17,876人の入館者があった。企画展事業としては、引き続き質の高い展覧会を開催し、市民の文化意識を高めるとともに、入館者の増加促進を図っていく。	6
美術館常設展事業	3	常設展としては「北村清巳」展、「東京百景」展（前半）、「名取春仙肉筆画」展、「山梨の日本酒」展、「東京百景」展（後半）の5回を開催し、6,024人の入館者があった。南アルプス市及び富士川流域にゆかりのある作家展をはじめ、名取春仙展や山梨の日本酒展など、多彩な展覧会を幅広く開催する中で、親しみがあり、芸術文化の楽しみを発見できる事業を展開していく。	6
教育普及事業	3	令和元年度からの新規事業であり、新たに整備した研修室を主会場として、市内中学生等によるワークショップや各種体験講座を開催した。年間46日の開催で、2,023人の参加者があった。引き続き博学連携の強化を図り、教育普及事業を推進して行く。	5

(3) 基本政策 : 4 心豊かな人と文化をはぐくむまちの形成

施策名 : 20 歴史・伝統文化の振興 (18事業)

所属 : 生涯学習課

事務事業名	評点	評価の視点	教育振興 プラン 施策番号
夜叉神太鼓保存会活動 支援事業	3	地域の伝統芸能を継承する文化団体に補助金を交付し、活動の活性化を促進し、地域の伝統芸能の保存と継承、地域交流の推進が図られた。会員数は前年比2人減の10人。	6
甲州遠光太鼓保存会活動 支援事業	3	地域の伝統芸能を継承する文化団体に補助金を交付し、活動の活性化を促進し、地域の伝統芸能の保存と継承、地域交流の推進が図られた。会員数は前年比7人増の20人。	6

所属 : 文化財課

事務事業名	評点	評価の視点	教育振興 プラン 施策番号
文化財保護活用事業	3	近年の異常気象によるためか、樹木等天然記念物への対応件数が増えている。令和元年度は、台風19号により三恵の大ケヤキの幹が折損するなど大きな被害がでたが、国、県と連携して適切に対応することができた。	5
文化財教育普及事業	3	実施した講座等の回数は213回、延べ参加人数は、10,549人であった。それぞれ前年比11%、6%の減となっているが、これは新型コロナウイルス感染症対策により、3月の授業や講座等がすべて行われなかったことが大きい。	5
宝珠寺のマツ松くい虫 防除支援事業	3	同木が樹勢を保った年数を成果の指標とし、文化財所有者の行う松くい虫防除事業の補助を行った。合併後16年間木の状態は良好に保たれている。	5
鏡中条のゴヨウマツ松 くい虫防除支援事業	3	同木が樹勢を保った年数を成果の指標とし、文化財所有者の行う松くい虫防除事業の補助を行った。合併後16年間木の状態は良好に保たれている。	5
長谷寺の防災施設保守 点検支援事業	3	建造物が良好に維持された年数を成果の指標とし文化財防災施設保守点検事業の補助を行った。合併後16年間建造物は良好に保たれている。	5
文化財教育普及看板設 置事業	3	本年度は、江原の浅間神社に安置される重要文化財「木造浅間神像」の説明板を1基新設した。	5
ふるさと〇〇博物館学 芸員育成事業	3	現在育成しているふるさと学芸員は2名。育成人数の実績値は100%である。ふるさと文化伝承館の受付業務に従事しながら経験を重ねている。	5
埋蔵文化財調査受託事 業	3	民間開発に伴う発掘調査1件、市道建設に伴う発掘発掘調査2件を受託し、適切に記録保存措置が図られた。	5

所属 : 文化財課

事務事業名	評点	評価の視点	教育振興 プラン 施策番号
市内試掘確認調査事業	3	市内の遺跡の保護が図られた数を成果の指標とし、達成率は100%。試掘調査の実施件数は27件であった。	5
国指定史跡「御勅使川旧堤防」整備事業	3	昨年度に引き続き、榊形堤防について、整備の際の基礎資料とするための確認調査（発掘調査）等を実施し、新たな知見等が得られた。	5
ふるさと文化伝承館運営事業	4	大規模改修工事を終え5月18日にリニューアルオープンした。新型コロナウイルス感染症対策により、3月2日から年度末まで休館し、開館日数が少なかったにもかかわらず、年間の入館者は、これまでで最も多い8,339人を記録した。	5
安藤家住宅運営管理事業	3	本年度の入館者数は3,850人で前年比28%の減となったが、これは例年最も多くの入館者を集める「ひな祭」期間中に、新型コロナウイルス感染症対策により休館した影響が大きい。	5
安藤家住宅イベント開催事業	3	「秋祭り」をはじめ、多様なイベントを開催した。イベント入館者数は156人となり、前年度比41%減となったが、これは例年最も多くの入館者を集める「ひな祭」期間中に、新型コロナウイルス感染症対策により休館した影響が大きい。	5
ふるさと〇〇博物館推進事業	3	年次計画に基づき、若草地区の歴史的資源の掘り起こし作業を行った。「デジタルアーカイブ」への地域資源の登録件数も順調に増え、令和元年度末時点で423件を数えている。また、本年度は、これまでの成果を反映した一般向けの冊子も刊行した。	5
伝統文化保存推進事業	3	伝統文化の継承について、より良い施策の立案と仕組みづくりを検討した。地域からの要望はなく、不執行となった。	5

所属 : 市立美術館

事務事業名	評点	評価の視点	教育振興 プラン 施策番号
旧白根桃源美術館維持管理事業	3	国の登録有形文化財である旧飯野産業組合倉庫（旧白根桃源美術館本館）の維持が適切に図られた。	5

(4) 基本政策 : 4 心豊かな人と文化をはぐくむまちの形成

施策名 : 21 学校教育の充実 (52事業)

所属 : 教育総務課

事務事業名	評点	評価の視点	教育振興 プラン 施策番号
教育長交際活動費	3	教育行政執行のため外部との交際上必要な経費である。内部基準に照らし、厳正に執行している。	-
教育委員活動事業	3	定例(臨時)教育委員会の開催。学校訪問及び教育研修など積極的に参加し、知識向上を図った。	-
教育委員会事務局管理事務	3	公用車、コピー機等の管理、郵便物の発送やコピー用紙のリサイクルなど、無駄のない予算管理に努めた。	-
巨摩高校定時制教育振興会参画事業	3	本市のほか、富士川町、中央市や生徒の雇用主、同窓会等で組織され、生徒の部活動、校外活動などの支援を目的に負担金を支出した。	-
小林愛則育英奨学会支援事業	3	将来社会の中核となる人材を育成することを目的とし、高校3年間奨学金を給付している。令和元年度は7名へ奨学金の給付を行った。	4
芦安活性化対策育英奨学金貸付事業	3	芦安地区の過疎対策事業として育英奨学金貸付事業を行っている。令和元年度は3名へ奨学金の貸与を行った。	4
南アルプス市奨学金貸与事業	3	申請により高校生及び大学生の保護者に対し、要件審査を経て適正な事務処理により奨学金を貸与した。	4
小学校施設設備整備事業(単独)	3	学校からの修繕要望に対し、設計、調査等を25件と白根飯野小学校プールサイド改修工事ほか74件の修繕工事を実施した。	4
中学校施設設備整備事業(単独)	3	学校からの修繕要望に対し、設計、調査等を14件と若草中学校普通教室引戸改修工事ほか30件の修繕工事を実施した。	4
教育施設長寿命化計画策定事業	3	インフラ長寿命化基本計画に基づき、教育施設の長寿命化計画を策定する事業である。令和元年度に計画策定を完了した。	4
落合小学校校舎大規模改造事業	3	建築から30年以上が経過し、老朽化が進んでいるため大規模改造工事を行い、教育環境の整備を図る事業である。令和元年度は仮設校舎や校舎本体等の工事(継続事業:R1~R2)を実施した。	4

所属 : 教育総務課

事務事業名	評点	評価の視点	教育振興 プラン 施策番号
芦安小中一貫学校整備事業	3	芦安小学校と芦安中学校を渡り廊下で接続して、小中一貫校としての施設環境を整備する事業である。令和元年度は工事を実施した。	4
空調設備設置事業（小学校施設）	4	小学校（14校）の特別教室にエアコンを設置し、児童・教職員の健康と避難所として良好な環境を整備する事業である。本格的に暑くなる前に完成させるため、学校及び工事業者等と綿密に調整を行い、7月から使用できるよう整備した。	4
小笠原小学校屋内運動場改修事業	3	建築から43年が経過し、老朽化が進んでいる屋内運動場のアリーナ床を全面改修し、良好な環境を整備する事業である。令和元年度は設計と工事を実施した。	4
楡形中学校校舎屋上防水改修事業	3	日常的に雨漏りが発生している管理・教室棟、特別教室棟の屋上防水を改修し、良好な環境を整備する事業である。令和元年度は設計と工事を実施した。	4

所属 : 学校教育課

事務事業名	評点	評価の視点	教育振興 プラン 施策番号
教育支援センター運営管理費	3	学校へ登校することが困難な生徒への学習支援・教育相談を行ってきた。保護者や学校と連携を図る中で、学校復帰・高校進学を目指して取り組んだ。また、教育相談員と臨床心理士による入所生徒や保護者へのカウンセリングを通して、生徒への支援を丁寧に行った。在籍者8名のうち、学校復帰2名、高校進学2名。	2
市単講師派遣事業	3	目標どおり34人の市単講師等を配置し、支援を必要としている児童生徒に対して、きめ細かな指導をすることができた。支援が必要となる児童生徒は増加傾向にあるので、市単講師の増員が課題である。	1
司書臨時職員配置事業	3	目標どおり14人の臨時職員を配置し、全ての学校に司書を配置することができた。今後も現状を維持し、学校図書館の有効活用を支援する。	4
用務員臨時職員配置事業	3	目標どおり芦安小中学校を除く学校に、児童生徒が快適に学校生活を送ることができるよう用務員を配置することができた。	4
学校図書館蔵書管理事業	3	学校図書館の蔵書とその貸出等をシステムで管理するとともに、学校・公立図書館間で情報共有を行うことができた。	4
学事管理事務	3	学齢簿の管理や転学等の就学事務を円滑に実施することができた。さらに、学校予算のうち学事管理事務で一括計上できるものは予算を集約し、歳出の削減に努めた。	4

所属 : 学校教育課

事務事業名	評点	評価の視点	教育振興 プラン 施策番号
学びの質を高める授業 づくり推進事業	3	指定校（2年次：大明小・八田小 1年次：八田中）を定め、児童生徒が互いの意見や考え方を聴き合い、学び合う授業づくりを目指し研究を深めた。また、授業公開によって、研究内容を市内の小中学校に示した。年度末には教育委員会を主催とし、市内22校の教職員を対象とした成果報告会と講師を招聘しての教育講演会を実施した。	1
南アルプス自然体験推 進事業	3	ユネスコエコスクールである芦安小・中学校を対象に南アルプス市の身近な自然を生かした体験学習を通して、児童生徒に南アルプス市の自然や伝統文化について学ばせる機会とした。小学校は夜叉神峠、栗沢山登山、中学校は北岳登山を中心とした学習に取り組んだ。	2
いじめ・不登校未然防 止推進事業	3	小学校5年、中学校1年でQ-U検査を実施し、学級、学年の集団分析を行い、いじめや不登校の未然防止、早期解消に向け、その活用を図った。また、教育講演会を実施して困難を抱える児童生徒やその保護者の理解、学校としての支援のあり方等について研修を深めた。しかし、いじめについては、解消率が99%を超えるなどよい成果をあげたものの、不登校については、発生率が高くなってしまった。	2
スクールガードリー ダー事業	3	児童生徒が安全に安心して登下校できるように、通学路の巡回や学校周辺のパトロールを実施した。また、県主催の研修会への参加及び打合せ会議の開催により、スクールガードの資質向上を図ることができた。	4
教育推進管理事務	3	指導主事等が研修に参加し、その成果を市内22校に還流しながら、必要な指導・助言を行った。また、国や県からの指導、教育雑誌から得られた最新情報、研究結果等を具体化し、学校訪問や研究会で提示した。	4
南アルプス市学校応援 団育成事業	3	各中学校区のコーディネーターを中心に、地域ボランティアを募り、見守り隊を含め1,900名以上の登録を得た。特に、小学校においては読み聞かせや農業体験をはじめとした体験活動や環境整備等、学校の要望に対応した講師を派遣することができた。	4
小中学校教師用指導 書・教師用教科書購入 事業	3	新学習指導要領の実施及び教科書改訂に伴い、小学校の教師用教科書・指導書を購入した。	2
学校災害補償保険事業	3	学校施設の瑕疵等、財物の滅失等の損害、学校管理下における児童生徒等の事故等の災害に対する保険に加入。	4
小中学校清掃委託事業	3	事務局へ予算を一括計上。入札により選定した業者により小中学校22校の校舎、体育館等の清掃を行い、快適な学校環境の維持向上に努めた。	4
第二次小中学校教育系 情報ネットワーク整備 事業	3	事務効率の向上のため教職員に1人1台PCの配置や校務支援システムの提供等を行い児童生徒と向き合う時間の確保に努めた。また、平成27年度に導入したタブレット型端末の保守を行った。	4

所属 : 学校教育課

事務事業名	評点	評価の視点	教育振興 プラン 施策番号
若草南小学校情緒障害 通級指導教室	4	市立小学校の普通学級に所属する軽度の情緒障害児童を対象に、自立支援教育を行っている。令和元年度は市内11校から28人の児童が通級した。さらに通級希望者が増加しており、現体制では対応しきれない状況になっている。今後の体制について検討を要する。	4
小中学校における小笠 原流礼法推進事業	3	小笠原流礼法宗家本部と関わりながら、礼法指導を行う2名の師範を市内小中学校22校に派遣した。心を育てることを主眼に置いた指導によって、小・中学校9年間を通じた取組となっている。教職員対象の実技講習や卒業証書授与伝達講習会等を実施し、指導にあたる教職員の理解度も高めてきた。	2
学校消火器管理事業	3	事務局予算へ一括計上。製造から10年を経過し、法令上期限切れとなる市立小中学校に設置済みの消火器の入替を行った。	4
外国語指導講師配置管 理事業	3	1名のアドバイザーと11名のALTを配置し、小・中学校において英語でのコミュニケーション指導を行った。通常の授業の他、教職員の英語力・指導力アップのための研修も行った。	1
小学校地域ふれあい道 徳教育推進事業	3	児童の「心の教育の充実」を図るため、地域の人々とのふれあいを中心とした道徳教育を行うための事業。1校当たり4万円の事業費。主に講師謝金に支出した。	2
小学校要保護就学援助 及び特別支援教育就学 奨励費事業（補助）	3	要保護世帯の児童1人の保護者に対し修学旅行費を、特別支援学級に在籍する児童60人の保護者に対し特別支援教育就学奨励費を支給し援助することができた。	4
小学校準要保護就学援 助事業（単独）	3	準要保護世帯の児童309人の保護者に対し就学援助費を支給することができた。さらに、新入学用品費の入学前支給も44人実施することができた。	4
中学校部活動コンクー ル・コンテスト参画事 業	3	芦安中学校を除く中学校の合唱部や吹奏楽部等が各種大会に参加するための負担金の支払いを行った。	4
中学校ヘルメット購入 支援事業	3	芦安中学校を除く自転車通学の生徒が補助対象。自転車通学の254人に対し、ヘルメット購入代金の半額を補助した。	4
中学校地域ふれあい道 徳教育推進事業	3	生徒の「心の教育の充実」を図るため、地域の人々とのふれあいを中心とした道徳教育を行った。1校当たり4万円の事業費で、主に講師謝金に支出した。	4
中学校関東大会・全国 大会支援事業	3	学校教育活動の一環として県外で行われる関東・全国大会に出場する経費の一部を補助した。	3
中学校要保護就学援助 及び特別支援教育就学 奨励費事業（補助）	3	要保護世帯の生徒2人の保護者に対し修学旅行費を、特別支援学級に在籍する生徒21人の保護者に対し特別支援教育就学奨励費を支給し援助することができた。	4

所属 : 学校教育課

事務事業名	評点	評価の視点	教育振興 プラン 施策番号
中学校準要保護就学援助事業(単独)	3	準要保護世帯の生徒188人の保護者に対し就学援助費を支給することができた。さらに、新入学用品費の入学前支給も21人実施することができた。	4
教育相談事業	4	多様化する児童生徒の諸問題に対し、臨床心理士と教育相談員を配置し、児童生徒及び保護者等の相談を行った。また、相談専用電話(ふれあいダイヤル)を相談窓口として開設し、広く周知した。相談件数は、来所98件、電話相談390件、訪問相談32件、巡回相談69件で、昨年度よりも大幅に増加した。	2
部活動指導員任用事業	3	白根巨摩中(テニス部)、白根御勅使中(ホッケー部)芦安中(バドミントン部)の部活動において外部指導員を雇用し、部活指導教員の支援及び生徒の技術等の向上を図ることができた。	3
小中一貫教育研究推進事業	3	八田地区・芦安地区で小中一貫校をスタートさせ、推進協議会で成果と課題について話し合った。また、他地区でも八田・芦安地区に学び、それぞれの地域の特徴を生かせるような一貫校設置に向けての取組を進めた。	4
教科用図書中巨摩採択協議会参画事業	3	新学習指導要領の実施及び教科書改訂に伴い、小学校の教科書を選定する必要があることから、旧中巨摩地区の市町で採択協議会をつくり事務を行っている。令和元年度は、本市が事務局となり、無事に採択を行うことができた。	4

所属 : 市立学校給食センター

事務事業名	評点	評価の視点	教育振興 プラン 施策番号
学校給食費徴収事業	4	99.07%の収納率を成果の指標として徴収率の向上を図り、徴収率は99.81%達成できた。	3
学校給食費支援事業	3	小中学校へ3人以上の子どもが通っている保護者を対象に支給した。申請者は188人、支給者は184人であった。学校との連絡を密にし、各窓口での受付も実施、広報でも広く呼びかけ申請漏れのないように努めた。	3
北部学校給食センター給食事業(学校給食)	3	学校給食を安心安全に提供するため食文化の多様化による児童のアレルギー食の対応(31名)、食育指導(10校)を行った。また、食材の購入は毎月学校長と市教委も参加し物資選定委員会を実施。味はもとより産地、品質、安全性を重視する中で食材を選定し、契約している複数の業者から見積りを徴し、価格交渉する中で月ごとに納品を行った。地産地消の食材についても、新たに地元農家の月星農園と契約を締結した。	3
南部学校給食センター運営事業	3	学校給食を安心安全に提供するため食文化の多様化による児童のアレルギー食の対応(39人)、食育指導(12校)を行った。また、食材の購入は毎月学校長と市教委も参加し物資選定委員会を実施。味はもとより産地、品質、安全性を重視する中で食材を選定し、契約している複数の業者から見積りを徴し、価格交渉する中で月ごとに納品を行った。地産地消の食材についても、新たに地元農家の月星農園と契約を締結した。	3

(5) 基本政策 : 4 心豊かな人と文化をはぐくむまちの形成

施策名 : 22 青少年の健全育成 (9事業)

所属 : 生涯学習課

事務事業名	評点	評価の視点	教育振興 プラン 施策番号
青少年育成コーディネーター設置事業	3	平成29年度から名称を「青少年育成コーディネーター」と改めた。市民会議の掲げる、「青少年の健全育成活動を推進」するため、地域、市民団体、学校、行政の連絡・調整を担い事業を推進している。	7
青少年育成推進会議運営事業	3	110人(定員112人以内)の推進員が、市民会議の3つの専門委員会に所属し、青少年活動や地域イベントなど広く活動を展開している。 夏休み・冬休みにはチラシを配布、年度末には広報誌を発行し、青少年の健全育成について啓発活動を行っている。	7
ジュニアリーダー養成事業	3	中高校生を対象に、地域や学校でリーダーとして活躍を目指す子どもを育成するため、月1回の研修会を開催している。 夏季研修では、次期リーダーを目指す小学6年生が参加し、総勢50人がデイキャンプ(ジュニアリーダー研修)に参加した。	7
成人式挙行事業	3	新成人の門出を祝うため、毎年1月に式典を開催している。 成人者863人中712人、参加率82.50%(前年820人中661人参加。参加率80.61%)	7
市子どもクラブ指導者連絡協議会支援事業	3	地区ごとに子どもの育成事業を実施している(76団体)。 市全体の事業では、親睦球技大会に子どもが集まらず見直しを図った。 令和元年度に内容を変更し、「親子ふれあい交流会」「子ども映画上映会」を実施し、家族での参加者が大幅に増加した。	7
南アルプス市警察署管内少年補導員支援事業	3	少年の非行防止活動の推進及び、各種防犯団体の活動支援や関係団体の連携を図ることを目的として協議会への補助金を交付。	7
キッズタウン南アルプス支援事業	3	職業体験をベースとした青少年育成事業への補助金。平成29年度参加者は小学生134人、平成30年度は203人あり、令和元年度は213人となった。地元業者や職人の仕事を体感し、憧れや興味を抱き、伝統や仕事の大切さを学ぶ貴重な機会となっている。	7
情報機器教育推進事業	3	平成28年度よりSNS利用やネット環境、携帯電話使用についての学習会、講演会を開催してきた。冊子を作成して小学5年生から中学3年生に配布。市内小中学校で学習会を実施し注意喚起を促している(年4校)。	7
青少年育成南アルプス市民会議支援事業	3	広く市民が青少年問題の重要性に着目し、健全育成を図ることを目的に様々な活動を活発に展開している。平成28年度に地区民会議を市民会議として活動方針や目的を統一した。 支部の活動支援のため、青少年育成コーディネーターを配置し、専門的な立場で関わりを持ち、各支部へ補助金を交付し対策を図っている。	7